

◆My Hobby：「ジャズレコード鑑賞」◆

川崎市高次脳機能障害地域活動支援センター

私の数少ない趣味の一つが、ジャズのレコード鑑賞です。

音楽再生メディアは、時代とともにレコードからCD、そして近年はサブスクへと移り変わりました。にもかかわらず、いまでも尚アナログ盤でジャズを楽しんでいます。



主に 1950~60 年代の、ハードバップと呼ばれるモダンジャズを中心に楽しんでいます。



いわゆるコレクターではないので大量に所有しているわけではありませんが、すぐ探せるようアルファベット順に整理しています。



特にお気に入りのものや、新しく購入したものは別の棚に面陳しています。

■追想

ジャズとの出会いは、小学生の頃。確か 1970 年前後だったと記憶していますが、実家のある北関東の片田舎の街で、叔父が開業した「PONY」という名のジャズ喫茶でした。

薄暗い店内の壁に掛かる、黒人ジャズトランペッターの大きなパネル。その下で啜えタバコ

の大人たちが、ネクタイを緩め、シャツの袖を捲り上げながら、お酒やコーヒーを嗜みつつランプに興じる姿。その空間に時に激しく、時に優しく流れるジャズ。

小学生の私にとって、あまりに不釣り合いな、大人の遊び場だったそのお店ですが、気怠い妖しさや甘美ささえ感じるその雰囲気、すっかり魅了されてしまうのには、さほど時間を必要としませんでした。

もっともその頃は、叔父がこっそり出してくれるクリームソーダの色と味の虜になっていただけなのかもしれませんが。

数年後、その叔父のジャズ喫茶もさまざまな事情で閉店してしまうことになり、それからしばらくは、私自身もジャズのことをすっかり忘れてしまっていました。

しかしその時は唐突にやってきます。高校時代、音楽好きの友人がたまたま貸してくれたジャズのカセットテープを家で聴き、あの頃の思い出が鮮烈に蘇ります。

毎日毎晩そのテープを聴き続け、すっかりジャズの虜。もちろん今度はクリームソーダなしです。

それ以来、友人と共に学内でモダンジャズ研究会なるものを設立し、昼休みに放送室から勝手にジャズを流したり、放課後の音楽室で、当時使われていなかった楽器を引っ張り出してきては、ジャムセッションに明け暮れる毎日。

卒業後に進学した大学でもジャズサークルに入部し、頭の中は専攻の学問よりもジャズや新しく興味を持った音楽のことばかりでした。

時を同じくして、大病を患い療養中だった叔父と再会し、閉店した店内にまだ当時のレコードが残っているはずだからと、埃を被った「PONY」の店名が書かれたレコード数枚を譲り受けたのもその頃でした。

さまざまな後押しを受けながら、私のジャズ熱はその後高まり続け、ついに 32 歳で脱サラ、念願のジャズ専門レコード店を立ち上げるまでに至りました。

10 年ほどでその夢のような日々は儚く終わりを告げたものの、いまだにジャズへの思いは変わることがありません。

早くに亡くなった叔父ですが、もし今一緒にジャズを聴きながら語り合えたとしたら、いろんな話ができたかもしれないなど、部屋でひとり「PONY」のレコードを聴きながら、そんなことをぼんやりと想うのです。（ふみを）



叔父から譲ってもらった PONY のレコードと、約 50 年大切に保管していた店名入りのマッチ。